花と水と生命（いのち）

福岡県　福岡教育大学附属久留米中学校
三年　髙木　瞳

私は四季の中で春が一番好きです。なぜなら、たくさんの生命の息吹きを感じることが出来るからです。山の緑は鮮やかになり、街路樹や庭にある草花は小さな蕾を咲かせようと今か今かと待っているようです。

先日、母と買い物に行った時、園芸コーナーに寄ると、色とりどりの花達が迎えてくれました。とその時、小さな男の子がはしゃぎながら走って来て、一つの植木鉢に当たり、倒してしまいました。その子は気がつかずに走り去ってしまったので、私は戻そうと手をかけました。すると、たくさんの蕾をつけた茎の部分が折れていました。じっと見つめる私に一人のおばあさんが声をかけてきました。

「かわいそうにねぇ。すぐに添え木でもしてあげれば水が届いて、咲くかもしれないけどねぇ。」その言葉にうなずいたものの、どうすることもできない私は、一度その場を離れたのですが、どうしても気になり、自分で育ててみたい、と母に頼みました。母は、責任を持って世話をするなら、とおこずかいで買うことを許してくれました。

家に帰るとすぐに補強方法を考えました。その花はサイネリアといって、たくさんのかわいい花を次々に咲かせます。茎は迷路のように入り組んでいるので、添え木は難しく、母に園芸用のテープをもらい、そっともとの形になるようにつなぎました。そして日当たりの良いところに置いて、祈りながらコップ一杯の水をあげました。それから毎朝水をあげて学校に行き、帰ってから様子を見ました。すると五日目の朝、何と折れていた茎の一つの蕾がきれいなピンクの花を咲かせていました。私はうれしさと同時に、花の生命力と水の力に感動しました。今までに見たどの花よりもいきいきとしていて、花言葉である『快活』を取り戻したように感じました。

私たちも水なしでは生きてはいけません。分かってはいるはずなのに、大切にしてこなかったせいで環境破壊という現実が迫ってきています。

地球上に存在する水のうち、九八パーセントが、海の水です。飲める水はたったの〇・〇一パーセントしかありません。その貴重な水に恵まれている私達だからこそ、もっと水の事を考え、将来につなげていかなければならないと思うのです。

例えば節水です。一言で節水といっても漠然としていますが、先日新聞にシャワーの例が書いてありました。シャワーを出しっぱなしで洗髪すると、三〇～五〇リットルかかりますが、こまめに出したり止めたりして洗うと、一二～二一リットルで済み、半分以上減ったそうです。日常生活の様々な所で使用している水ですが、トイレやお風呂、食事の支度など、量までは分からない事が多く、数字で表わされるとよく分かりました。

また汚さないことも大事です。私の家では、食器を洗う時には、汚れを拭いてから洗うようにしています。それは、生活排水が汚れの大きな原因だと聞いたからです。

私達にできることは小さな事かもしれませんが「千里の道も一歩から」という格言があるように、始めなければ進まないと思うのです。

私達人間は、あの小さな男の子のように、わざとではなく、よりよい生活を求めているうちに自然を傷つけてきたのだと思います。しかし傷つけたと分かった以上、今度は治す努力をすべきです。誠意を持って、努力をすればきっと報われると信じることができます。なぜなら、今も次々に花を咲かせてくれるあの時のサイネリアが、その事を教えてくれているような気がするからです。

いつか、あの時のおばあさんに見せることができたらいいなと思っています。

水に感謝

佐賀県　佐賀県立香楠中学校
一年　福　山　景　斗

連休初日、野球の自主トレでランニングをした。午後の日差しは強く、かなり気温は上がっていた。ぼくののどはからからになった。家にもどって、水道のレバーを押す。コップ一杯の水で、ぼくは生き返った。ほてった頭を蛇口に近づけ、レバーを全開ににしてザバザバと頭から水をかぶっていた。しばらくそうしていると、背後から母の声がした。

「もったいない。一〇〇万円の水なのに…。」

「水が一〇〇万？は？何のこと？」とぼくは、不思議に思いながらも水をあび続けた。

疑問は夜にとけた。母が、『新築計画見積書』と書かれたぶ厚いレジメを見せながら教えてくれた。うちはもうじき自宅を新築する。家の水にかかる費用は、給排水管引込工事費が、約四七万円、屋外給排水工事に、約四五万円、上下水道加入負担金が、約一五万円、と書かれていた。ここまですでに一〇〇万を超す計算となる。さらに、日々の上下水道代として数千円が加算されていくという。つまり、公共の水道管から、レバーを押して水が使えるまで一〇〇万円以上かかるというのだ。

「かかるのはお金だけじゃないよね。」

母は言う。配管工事の人、取りつけの水道店の人、事務処理をする役所の人、そのお金を支払うために働く家族、いろいろな人手がかかった上で、手軽に水が使えているのだと。

なるほどと思いながら、よくよく考えると母の話は、道の水道管から蛇口までのほんの先端の話に過ぎない。水道管の水は、どこから来たのか、と逆上っていくともっと、いろいろなお金や人が関わっているはず。おもしろくなってきたので、調べることにした。以前見学した時にもらった市の浄水場のパンフレットを取り出してみた。

ぼくたちの住む鳥栖市の水道の水源は、筑後川水系宝満川と上流のダム等である。宝満川から取水し、ごみを取り、管の中を六時間かけて山手にある浄水場に送られる。そこで、消毒したり、ろ過したりして飲める水にする。さらに安全でおいしい水にするため、九二項目の検査があるらしい。これらすべてを経た水が、各家庭へ送られるのである。ちなみに取水には権利がいるらしく、日山氏など昔の政治家が、筑後川から取水権利をとるために奔走してくれたおかげで、今も鳥栖市は豊富な水を得ることができているとも教わった。浄水場で働く人々、検査員、ダムや河川工事に関わった人々、知恵のある先人達の努力のおかげなのである。しかし、資料によると市では、一日プール五〇杯分の水、一人当たりにするとバケツ三三杯分も使っているらしい。（ぼくもそのうちの一人なのだが）この使った水は、浄水センターできれいにしないといけない。微生物を使って良好な汚泥をしずませ水を澄ませるという優れた技術が使われているそうだが、ここでも多大な人手と費用がかかっている。手軽だからといって、まさに湯水のように使うのは技術を開発した先人の知恵と努力に対して失礼に感じてきた。

人間の体の七〇パーセントは水分でできているため、健康を保つには、常に水分を補給する必要があるという。しかし資料によると地球上にある水のほとんどは海水で、川や池の水は、三パーセント。しかもそのほとんどは、極地の氷なので、ぼくたちが、使うことのできる水は、〇・八パーセントしかないそうだ。そんな貴重な水を、恵まれた環境のもとたやすく使うことができていたのだ。

ねる前、水道の水をコップに注いだ。時をこえた様々な人々の知恵と努力のおかげでぼくは貴重な地球の水資源を使わせてもらっているのだ。そのことに感謝して、大切に使おう。そう思いながらゆっくりと一杯の水を飲んだ。

水の気持ち

佐賀県　佐賀県立香楠中学校
一年　鵜　川　雅　幸

僕は、今雲の上にいる。もうすぐ雨になって落ちていく所だ。たった一てきの水だけど、なにかできることは、ないだろうか？と僕は、思っている。

雨となって、落ちていった。川に落ち、川の一部となって、流れていった。水の中で僕は、魚を見た。あたりまえのことだが、彼らは、水がないと生きていけない。川だって、一てきの水からできているのだから、僕達が彼らの生命（いのち）を手助けしていることになる。そう思うと、僕は、うれしくなった。ずっと流れていくと、海に出た。広いなぁ。と僕は、思った。また、しばらく流れると、「流氷」と出会った。北極から流れてきた、でかい氷だ。この氷も、たった一てきの水からできている。さっきの魚のことも、思いだし、もしかしたら、たった一てきの水にもできることは、無限にあるのではないかと思った。少し深い所に行ってみると、イルカや鯨が泳いでいた。みんな顔がいきいきしている。これも水のおかげだ。彼らの楽しそうな顔を見ると、こっちも楽しかった。ずっと流れると、「人間」が、のりを作っているのを見た。「人間」も、水を使っているのだなぁ。と思ったりもした。しばらくすると、おどろく、光景を見た。他の水たちに、洗ざいがまじって、苦しんでいるのを見た。洗ざいは、「人間」が作りだしたものだ。のりを作ったり、魚をとったりしているのに、僕の仲間をよごすのは、ゆるせなかった。みんなと協力して少し自然のことを考えてもらおうかな？と、思った。そこで、台風を作ろうと考えた。僕らは、協力して、大型の台風を作った。そして、少し人間達をおどかした。やりすぎたかな？と思ったが、これで、僕達のことをわかってくれたのなら良いかなと思った。台風になったので、そのまま、また雲の中にもどった。しばらくこのままだ。上空から見た地球はキレイだった。ただ、前見た時と、変わったのは、緑が少なくなっていたことだ。人間がすごい勢で木をけずっているのだ。これが、「地球温暖化」の原因だ。

また、雨となって落ちていった。こんどは、地面に落ちてしみこんだ。土の中で、僕は草にしみこんだ時のことを考えた。水は草の栄養となり、草をいきいきさせる。その草を、牛やブタなどが食べる。だから、僕らは牛や草木の生命（いのち）にもなっていることになる。やはり、たった一てきの水にもできる事はたくさん（無限）にあるんだ！ということを、感じた。

ずっとしみこんでいくと、あることに気付いた。「熱い」ということだ。しばらくそれにたえると、他の水達も、ふっとうしながらたまっている場所についた。そして、勢よく上（地上）に出た。僕達は「温泉」になっていたのだ。僕らはためられ風呂となった。色々なお客さんを楽しませた。人間も楽しそうだなと思った。みんなを楽しませることができて、僕は大満足だった。そして、再び雲の上にもどった。僕はこれからもこんな旅をくりかえして行くだろう。僕は今までの旅を通して気付いたことがあった。それは、たった一てきの水でも、できることは何個もあるのだと。水には、計りしれない力がある。それを、みんなに作ってもらってほしいと思った。それと同時に、僕達を大切にしてほしいと思いました。僕はたった一てきの水だけど、みんなのことを楽しませる旅が大好きです。

私がこの二年間挑戦してきた事

熊本県　上天草市立大矢野中学校
三年　小松野　史　子

私は中学一年生の時、水の作文を書きました。それまでは、蛇口をひねればいつでもどこでもどれだけでも水は出てくるものと信じていました。しかし、作文を書いた事で大切な事を学びました。

熊本県は、県土の約七割が森林で占められており、その恵まれた環境により、六五万人の上水道をほぼ一〇〇パーセント地下水でまかなっています。これは、全国でも非常に珍しいケースです。湧水池も多く、全国に誇れる水の豊富な土地なのです。私も轟水源に行った事があり、溢れ出す澄んだ水を飲み、とてもおいしく感じました。地元の人々も、その湧水を利用して野菜などを洗い、水が生活に欠かせない風景を見る事も出来ました。

しかし、水資源は限りがあるものであり、使い過ぎれば、必ず枯れてしまうのです。私達の生活は、水が不足すると一変してしまうのです。私達の日頃の生活ばかりではなく、農作物や畜産、工業などたくさんの事に影響してきます。また、安全に暮らすための消防活動にも影響する事を忘れてはいけません。

このような事を学び、自分に出来る事を考え、二年間、節水に取り組んできました。そして主に四つの事に挑戦してきました。

まず一つ目に、蛇口の水を出し過ぎない事です。出す水の量を鉛筆一本分くらいにすると、水を無駄にせず、使用量を随分と減らす事が出来ます。

二つ目に、歯みがきの時、必ずコップに水をためる事です。水の出しっぱなしに比べると、約十分の一の量で済みます。

三つ目は、食器洗いの時、お皿の油分をある程度紙でふき取り、さらにため洗いをする事です。不要な紙も有効に使う事が出来て、洗剤や水の量も少なくて済みます。

最後に、雨水を有効に利用する事です。バケツを幾つか置いておき、水がたまれば、植物にその水をかけています。

家族でこれらの節水を実行する事により、意識が高まって、毎月の水道使用量を確認するようになりました。使用量だけでなく料金で比べてみるのも分かりやすく、良い方法だと思います。料金を見てきた事で洗濯機も節水型のものに変えて、さらに節水が出来るようになったと思います。また、水道料金は、住んでいる地域によって差があります。私が住んでいる上天草市は、全国で九番目に水道料金が高い事も知りました。

私の家族がこの二年間でさまざまな節水をした事により、一体どのくらいの量の水が無駄に使われなかったでしょうか。

最近、スーダンの少年兵について知る機会があり、彼らの生活は水が何日も飲めないほどのひどいものでした。よりたくさんの人が節水を心がけることによってこのような人々に水を分け与える事が出来るとすれば、どんなにうれしい事でしょうか。

これから、私が行っている節水の中の一つでもいいから、私のいる中学校で一人一人が実践すれば、きっとものすごい量の水が節水されて、絶対に環境が良くなってくるに違いないと思います。

今後私が挑戦していきたい事は、十分に水も得られない人々の立場を考えながら、水を大切に使う事です。

そのために節水のアイデアを考え出し、節水を続けるだけでなく、できるだけたくさんの人に水の大切さを理解してもらえる様、努力していきたいです。

第 30 回「全日本中学生水の作文コンクール」ポスター

募集案内

《テーマ》水について考える（題名は自由）

《例　題》「大切な水」「水不足を体験して」「命を支える水」「ダムの役割」「水と暮らし」「水源を守る」「水のある風景」等

《原　稿》① 400字詰原稿用紙4枚以内、日本語で記入された個人作品
② 本文の前（原稿用紙枠内）に題名、学校名（ふりがな）、学年、氏名（ふりがな）を明記して下さい。

《応募締切日》平成20年5月12日（月）【到着分有効】

《あて先》

《中央審査会の賞》
○ 最優秀賞……賞状、盾、副賞…… 1名
○ 優 秀 賞……賞状、盾、副賞…… 5名
○ 入　　選……賞状、副賞…… 約30名
○ 中央審査参加賞…… 約100名

《入賞発表》7月中旬に入賞作文を決定し、入賞者へ通知します。

《表　彰》最優秀賞及び優秀賞受賞者を「第32回水の週間記念式典」（東京）に招待し、賞状等を授与します。

《主　催》国土交通省

《後　援》文部科学省　全日本中学校長会　独立行政法人水資源機構
水の週間実行委員会

詳しくは、「水の日」「水の週間」についての国土交通省のホームページ http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/h_event_pr/event_pr01.html をご覧下さい。

―― 第30回「全日本中学生水の作文コンクール」概要 ――

1　応募要領

①テーマ……「水について考える」（題名は自由）
②対　　象……中学生（平成20年度に中学校に在学中の者、または、これらの者と同じ年齢のものを含む）
③原稿枚数……400字詰原稿用紙　４枚以内
④あて先……中学校の所在都道府県水資源担当部局、ただし、外国に居住する者にあっては、国土交通省土地・水資源局水資源部
⑤応募期間……平成20年５月12日（月）到着分有効、ただし、外国に居住する者にあっては、平成20年６月２日（月）までに国土交通省土地・水資源局水資源部あて到着分有効
⑥版権等……○応募作文は自作の未発表のものに限る
○応募作品の版権は、主催者に帰属する
○応募作文の返却は行わない

2　審　　査

応募作品14,929編のうち、都道府県段階等の審査を経た134編を対象に、平成20年７月２日開催された中央審査会において、最優秀賞１編、優秀賞５編及び入選24編あわせて30編の入賞作文を決定

3　表　　彰

(1) 賞および賞品

賞		賞　　品
最優秀賞	国土交通大臣賞	賞状、盾、副賞
優秀賞	全日本中学校長会会長賞	賞状、盾、副賞
優秀賞	水の週間実行委員会会長賞	
優秀賞	独立行政法人水資源機構理事長賞	
優秀賞	国土交通省水資源部長賞	
優秀賞	全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞	
入　選		賞状、副賞
中央審査参加賞		記念メダル

(2) 表　彰　式　最優秀賞及び優秀賞の受賞者を平成20年７月27日（日）に東京で開催された第32回水の週間記念式典において表彰

4　中央審査委員

(50音順、敬称略)
須磨　佳津江（キャスター）
田村　雄一　（(社) 日本水道協会　調査部次長）
長崎　宏子　（スポーツコンサルタント）
浜田　康敬　（独立行政法人水資源機構　理事）
宮本　敏久　（国土交通省大臣官房審議官（水資源担当））
山田　佳子　（全日本中学校長会　編集部副部長）

5　主催者等

主催：国土交通省、都道府県
後援：文部科学省、全日本中学校長会、水の週間実行委員会、
独立行政法人水資源機構

第 30 回「全日本中学生水の作文コンクール」地方審査優秀者名簿

都道府県名	氏　名	氏　名	氏　名
北海道	太田勇樹	日向健斗	安居綾香
青森県	◎野坂創一	工藤華乃子	松橋聖愛
岩手県	梅木大樹	川島彩衣	福士達哉
宮城県	○杉山智香	早坂梨菜	後藤若葉
秋田県	由利美智子	加川高啓	畑山友美
山形県			
福島県	阿部光太郎	増子光希	安田穂奈美
茨城県	○小堀真穂	○海老根拓馬	仲山あゆみ
栃木県	岩原理絵	○森戸千浩	小堀綾乃
群馬県	●大澤阿紋	○田村洋貴	小鮒里美
埼玉県	◎千島真実子	富田帆波	佐藤吏紗
千葉県	○吉次由美子	斉藤由佳	南川智美
東京都	○小池由莉		
神奈川県	増田知美	柳川岳志	○石井綾乃
新潟県	堀田智恵	田切貴紘	安本有紗
富山県	○藤島早紀	○林　なな子	池田千恵
石川県	◎堀内彩萌	木下　眸	○東田陽子
福井県	土橋史佳	勝　唯瑠	吉川春花
山梨県	内田大貴	門坂真里	坂本宗一郎
長野県	金　実優	桑原　萌	青木陽子
岐阜県	坂井田晃平	荻野真帆	柳原彩花
静岡県	土屋俊貴	○小林太士	和田彩夏
愛知県	山田優華	山田つかさ	杉浦那実
三重県	山本玲実	岸田真帆	藤波　梓
滋賀県	中川美里	○鈴江隆志	佐野　愛
京都府	○三田優奈	○西村祐香	竹腰由里
大阪府	高野　剣	西村　彬	西田　空
兵庫県	和田紘実	中西達彦	古山明恵
奈良県	窪田あおい	宮久保晴加	○山本みか
和歌山県	坂口依理加	向　沙奈	山﨑彩瑛子
鳥取県	西村知夏	北村和音	小松文香
島根県	○山田彩花	安田智恵	深田亜実
岡山県	吉田美央	渡辺真帆	野崎理加
広島県	橋本七星	大島隆太郎	中川ゆいか
山口県	長村　篤	長畑晴華	藤井早苗
徳島県	北尾　緑	渡井美和	倭田なつき
香川県	尾幡穂乃香	福家一輝	森　ちひろ
愛媛県	○宇津博美	○北野智愛	○山本悠里
高知県	山﨑大雅	伊東拓美	黒田喜穂
福岡県	島田あきほ	○髙木　瞳	良永陽子
佐賀県	○福山景斗	○鵜川雅幸	山口祐佳
長崎県	浦川佳絵		
熊本県	元村　彩	藤木あみ	○小松野史子
大分県	平田美菜都	小畑尚也	進　寛平
宮崎県	◎中村由希帆	興梠真季	中島理子
鹿児島県	川﨑加奈	◎河野文香	倉園千穂
沖縄県	新里千佳	親泊　優	松山忠明

（注）氏名の前の印は、中央審査会における入賞者で、●は最優秀賞、◎は優秀賞、○は入選

第 30 回「全日本中学生水の作文コンクール」応募状況

都道府県名	応募学校数	応募総数（編）	学年別（人）		
			１年	２年	３年
北海道	6	95	1	62	32
青森	10	193	92	45	56
岩手	9	41	2	12	27
宮城	5	72	4	57	11
秋田	2	35	0	18	17
山形	0	0	0	0	0
福島	19	159	41	56	62
茨城	14	559	156	152	251
栃木	8	570	0	279	291
群馬	8	817	137	290	390
埼玉	9	361	55	206	100
千葉	13	920	523	155	242
東京	1	1	0	1	0
神奈川	26	821	200	191	430
新潟	3	73	25	15	33
富山	3	275	92	183	0
石川	3	63	0	61	2
福井	2	20	3	5	12
山梨	2	123	0	122	1
長野	2	12	0	12	0
岐阜	2	136	0	123	13
静岡	6	229	116	76	37
愛知	12	833	348	189	294
三重	8	356	129	119	108
滋賀	9	769	295	229	245
京都	7	576	104	250	222
大阪	10	560	116	37	407
兵庫	4	205	0	179	26
奈良	6	164	47	59	58
和歌山	10	492	91	215	186
鳥取	1	18	0	0	18
島根	2	4	0	1	3
岡山	3	62	0	11	51
広島	3	89	2	52	35
山口	7	24	7	4	13
徳島	6	46	1	39	6
香川	2	224	220	3	1
愛媛	5	20	0	3	17
高知	4	134	133	0	1
福岡	15	934	72	509	353
佐賀	5	671	364	177	130
長崎	1	80	80	0	0
熊本	22	2,536	884	827	825
大分	7	213	8	13	192
宮崎	10	107	51	33	23
鹿児島	15	192	97	40	55
沖縄	12	45	20	8	17
合計	339	14,929	4,516	5,118	5,293

（備考）学年不明２編

「全日本中学生水の作文コンクール」応募状況の推移

	応募学校数	応募総数	性別		学年別		
			男	女	1年	2年	3年
	(校)	(編)	(編) (%)	(編) (%)	(編) (%)	(編) (%)	(編) (%)
第1回 (昭和54年度)	634	4,875	1,878 (39)	2,997 (61)	1,513 (31)	1,710 (35)	1,652 (34)
第2回 (昭和55年度)	486	3,930	1,446 (37)	2,484 (63)	1,245 (32)	1,462 (37)	1,223 (31)
第3回 (昭和56年度)	487	5,569	2,159 (39)	3,410 (61)	2,004 (36)	1,974 (35)	1,591 (29)
第4回 (昭和57年度)	512	5,111	1,878 (37)	3,233 (63)	1,923 (38)	1,848 (36)	1,340 (26)
第5回 (昭和58年度)	495	4,192	1,435 (34)	2,757 (66)	1,925 (46)	1,214 (29)	1,053 (25)
第6回 (昭和59年度)	531	7,013	2,905 (41)	4,108 (59)	2,923 (42)	2,115 (30)	1,975 (28)
第7回 (昭和60年度)	572	9,703	3,676 (38)	6,027 (62)	3,794 (39)	3,647 (38)	2,262 (23)
第8回 (昭和61年度)	507	7,431	3,080 (41)	4,351 (59)	2,809 (38)	2,680 (36)	1,942 (26)
第9回 (昭和62年度)	513	9,253	3,789 (41)	5,464 (59)	4,086 (44)	2,935 (32)	2,232 (24)
第10回 (昭和63年度)	498	10,119	4,233 (42)	5,886 (58)	4,212 (42)	3,501 (34)	2,406 (24)
第11回 (平成元年度)	641	13,192	5,601 (42)	7,591 (58)	5,345 (41)	4,392 (33)	3,455 (26)
第12回 (平成2年度)	551	11,782	5,320 (45)	6,462 (55)	5,404 (46)	3,549 (30)	2,829 (24)
第13回 (平成3年度)	623	12,056	4,834 (40)	7,222 (60)	5,174 (43)	3,821 (32)	3,061 (25)
第14回 (平成4年度)	552	12,718	5,332 (42)	7,386 (58)	4,898 (38)	4,533 (36)	3,287 (26)
第15回 (平成5年度)	473	13,680	5,340 (39)	8,340 (61)	4,658 (34)	5,024 (37)	3,998 (29)
第16回 (平成6年度)	557	13,647	5,591 (41)	8,056 (59)	5,247 (38)	4,577 (34)	3,823 (28)
第17回 (平成7年度)	558	15,918	6,617 (42)	9,301 (58)	5,940 (38)	5,388 (34)	4,590 (28)
第18回 (平成8年度)	491	15,479	6,595 (43)	8,884 (57)	5,403 (35)	5,606 (36)	4,470 (29)
第19回 (平成9年度)	456	13,688	5,731 (42)	7,957 (58)	5,088 (37)	4,792 (35)	3,808 (28)
第20回 (平成10年度)	493	13,764	5,935 (43)	7,829 (57)	4,842 (35)	4,609 (34)	4,313 (31)
第21回 (平成11年度)	429	11,903	4,971 (42)	6,932 (58)	4,324 (36)	4,059 (34)	3,520 (30)
第22回 (平成12年度)	413	14,283	6,288 (44)	7,995 (56)	4,737 (33)	4,968 (35)	4,578 (32)
第23回 (平成13年度)	362	11,841	5,131 (43)	6,710 (57)	3,862 (33)	3,844 (32)	4,135 (35)
第24回 (平成14年度)	413	13,442	6,159 (46)	7,283 (54)	4,878 (36)	4,691 (35)	3,873 (29)
第25回 (平成15年度)	453	13,385	5,980 (45)	7,405 (55)	4,100 (31)	4,618 (34)	4,667 (35)
第26回 (平成16年度)	452	16,488			5,595 (34)	5,655 (34)	5,238 (32)
第27回 (平成17年度)	439	15,726			4,489 (29)	6,464 (41)	4,773 (30)
第28回 (平成18年度)	373	16,038			5,157 (32)	5,811 (36)	5,070 (32)
第29回 (平成19年度)	385	16,173			5,242 (33)	5,697 (35)	5,234 (32)
第30回 (平成20年度)	339	14,929			4,516 (30)	5,118 (34)	5,293 (36)
合計	14,695	347,385			125,365 (36)	120,331 (35)	101,687 (29)

(注)・第10回から海外在住中学生の作文募集を始める。
・第26回から作文応募時の性別表記を不要としている。
(教育現場における男女共同参画社会づくりに向けた取り組みに配慮)

第30回「全日本中学生水の作文コンクール」表彰式

全国からの応募作文14,929編の中から選ばれた最優秀賞1編と優秀賞5編の受賞者の表彰式は、平成20年7月27日（日）に第32回「水の週間」記念式典（科学技術館）で実施された。

喜びの受賞者たち

国土交通大臣挨拶（春田事務次官代読）

最優秀作文を朗読する大澤さん

須磨中央審査委員から賞状を受け取る千島さん

長崎中央審査委員から賞状を受け取る野坂さん

国土交通省

国土交通省土地・水資源局水資源部

〒100-8918　東京都千代田区霞が関２－１－２
電話　(03) 5253－8111（代表）
ホームページ　http://www.mlit.go.jp